

兵庫県立大学評価委員会（第2期）

<第1回 資料>

目 次

資料1	兵庫県立大学評価委員会 第2期委員名簿・・・・・・・・・・	1
資料2	評価の進め方について（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料3	評価の視点について（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
資料4	今後のスケジュール（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11

兵庫県立大学評価委員会 第2期委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	所 属 等
家次 恒	シスメックス株式会社 代表取締役社長 神戸商工会議所 副会頭
石川 啓	学校法人 帝塚山学院理事長 元関西大学 学長
西門 義博	学校法人 三田学園理事長 兵庫県私学総連合会 会長
西川 京子	西川京子公認会計士事務所 所長
藤田 昌久	独立行政法人 経済産業研究所 所長 甲南大学教授

評価の進め方について（案）

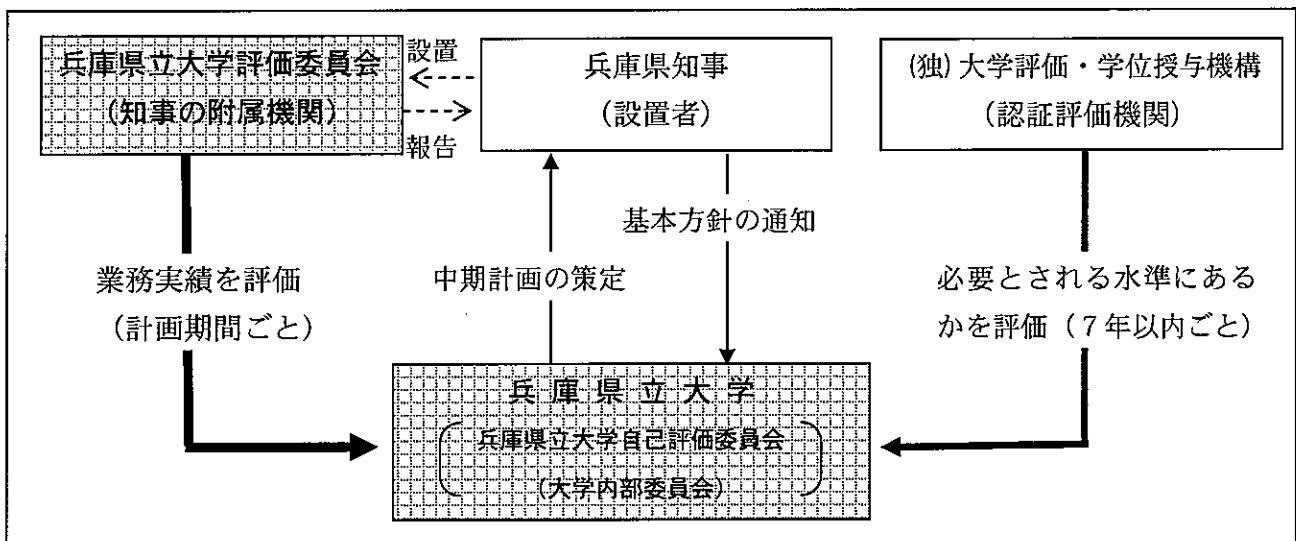
大学評価は、大学自らによる自己点検・評価を基に、より透明性の高い第三者評価を実施し、その評価結果を教育研究等の改善に反映させるものである。

兵庫県立大学では、学校教育法の規定により、必要とされる教育研究水準を満たしているか評価する認証評価に加え、「兵庫県立大学評価委員会」による第三者評価を実施している。

1 兵庫県立大学評価委員会の位置づけ

兵庫県立大学は法人化していないが、大学法人制度のうち、大学の活性化に繋がると考えられるものについては、その考え方の導入を図っている。

その一環として、学内に自己評価委員会を設置し、自己点検・評価を行うとともに、大学の中期計画の実績を評価し、今後の大学の計画的な運営に資するため、第三者評価機関である知事の附属機関「兵庫県立大学評価委員会」が設置され、その業務実績を評価している。



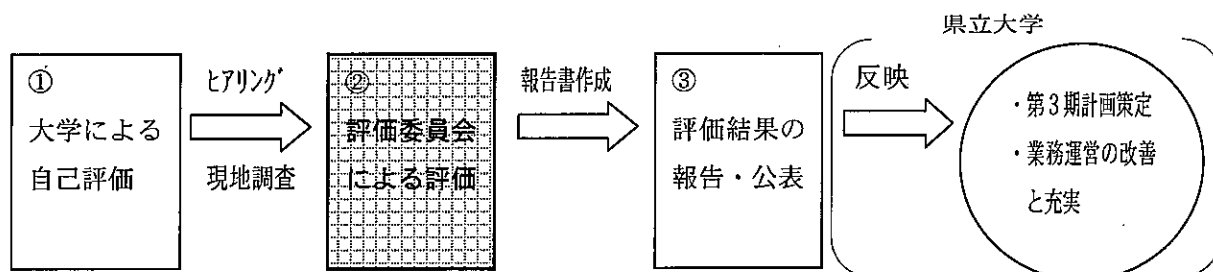
<参考：認証評価機関による評価>

大学は、教育研究等の総合的な状況について、文部科学大臣の認証を受けた機関による評価（認証評価）を受けることとされており（学校教育法第109条）、評価機関は、教育研究の実施体制、教育の成果、財務等大学として必要とされる水準（大学評価基準）に適合しているか否かを評価し、公表する。

評価は7年以内ごとに受ける必要があり、県立大学は今年度に受けている。

2 評価の流れ

評価委員会による評価は、県立大学が第2期中期計画（H19.4.1～H22.3.31）の実施項目ごとに点検した自己点検・評価結果に基づいて行うことを基本とする。



3 評価の対象

第2期中期計画（H19.4.1～H22.3.31）に基づく3年間を評価の対象とする。

4 評価の具体的方法

(1) 大学による自己評価

大学は、平成21年8月を基準時点とし、計画に示された272の小項目ごとに目標の達成状況を点検し、自己評価を行う。

ア) 実施状況…取組みや活動内容を具体的に記述する。

イ) 評価指数…中期計画に指標を設定している項目について、各年度の指標を記載する（平成21年度については、4月1日又は8月1日現在の指標を記載する。）。

ウ) 評価方法…達成度について、次の5段階により示す。

達成度	判断の目安・考え方
5	達成時期・内容において計画を上回って実施していると判断される。
4	計画のとおり推進中であると判断される。
3	計画が遅れ気味であると判断される。
2	計画が大幅に遅れており、取組状況に改善すべきところがあると判断される。
1	計画に対する取組が行われていないと判断される。

なお、平成20年度には、第2期計画の中間時点である平成20年9月を基準時点とし、推進状況について「計画どおり推進している=○」、「計画どおり推進できていない=×」の2段階により中間評価を実施、公表している。

(2) 評価委員会による評価

評価委員会は、大学の自己点検・評価結果の分析及び大学現地の視察や大学からのヒアリングをもとに、専門的な立場から、項目別評価と全体評価を行う。

①項目別評価

平成19年度から平成21年度の3年間に計画されていた項目について評価を行う。

特に、計画どおり推進されていない項目や個別に意見を述べる必要があると考えられる項目を重点的に議論し、改善点を明らかにするほか、県立大学の推進する特筆すべき取組みを評価する。

4つの大項目の達成状況については、小項目の評価結果を総合的に勘案し次の5段階により評価するとともに、記述により概括する。

区分	達成度	判断の目安・考え方
S	特筆すべき進捗状況	達成時期・内容において、特に計画を上回って実施されていると判断される。
A	計画どおり	達成時期・内容において、計画どおり実施されていると判断される。
B	概ね計画どおり	達成時期・内容において、概ね計画どおり実施されていると判断される。
C	やや遅れている	達成時期・内容において、やや遅れていると判断される。
D	重大な改善事項あり	達成時期・内容において、特に重大な改善事項がある。

②全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、教育、研究、社会貢献など業務全体にわたる横断的な観点から、大学の業務の実績について記述により評価する。

また、目標設定などの計画内容や今後の取組みについても必要に応じて意見を付する。

5 評価結果の報告、公表

全体評価、項目別評価についての評価結果報告書は、平成22年3月を目途に知事へ提出し、知事はその結果を公表する。

また、平成22年度は、評価結果のフォローアップとして県立大学との意見交換会を実施する予定。

<参考>

兵庫県立大学第2期中期計画の構成

I 基本目標	○教育の成果を誇りうる人間性豊かな大学 ○先導的・独創的な研究を行う個性豊かな大学 ○世界に開かれ、地域とともに発展する夢豊かな大学	
大項目	中項目	小項目数
II 教育の一層の 充実・強化	1 教育体制・教育課程の充実強化	11
	2 学生の受入	5
	3 全学共通教育の充実	10
	4 社会ニーズに対応した教育の展開	16
	5 学生の受入支援	18
	6 学術情報環境の充実	4
	7 積極的な大学教育改革推進	11
	8 教育の成果	2
	9 中高大連携教育の実施	2
	9	79
III 研究のさらなる 発展・高度化	1 研究体制の充実強化	7
	2 新たな研究拠点の整備・充実	4
	3 研究の高度化・重点化	6
	4 共同研究の推進と外部研究資金の確保	6
	5 研究支援	4
	6 研究成果の公表と社会への還元	2
	6	29
IV 社会貢献の積 極的な展開	1 地域社会との交流・連携	8
	2 生涯学習の支援	6
	3 地域産業との交流・連携	9
	4 国際交流の推進	14
	4	37
V 自主的・自律的 な管理運営体 制の確立	1 戦略的・機動的な大学運営の推進	16
	2 教育研究環境の整備	9
	3 柔軟で多様な教員人事制度の構築	9
	4 事務組織の機能強化と業務の効率化	6
	5 点検・評価と情報の公開	7
	5	47
	24	192
VI 各部局ビジョン	1 経済学部	3
	2 経営学部	4
	3 工学研究科	7
	4 物質物理研究科	4
	5 生命理学研究科	4
	6 環境人間学部	2
	7 看護学部	5
	8 応用情報科学研究科	4
	9 会計研究科	5
	10 経済経営研究所	4
	11 高度産業化学技術研究所	3
	12 自然・環境科学研究所	3
	13 地域ケア開発研究所	6
	14 学生部	5
	15 総合教育センター	5
	16 学術総合情報センター	3
	17 生涯学習交流センター	2
	18 産学連携センター	5
	19 国際交流センター	6
	19	80
	43	272

(*) 部局ビジョンは、評価の参考として活用するが、部局独自で描いた将来構想を取りまとめたものであるため個々の評価は行わない。

評価の視点について（案）

I 基本的な視点

- 1 県立大学の業務運営について多角的な観点から総合的な評価を行い、改善すべき点を明らかにするとともに、その計画的な運営に関して必要と認める事項についての建議を行うこと。
- 2 大学の統合・改革の取組みを重点的に評価し、これを支援すること。
- 3 教育・研究に加え、地域とともに発展する大学として推進している地域社会や国際社会への貢献を積極的に評価すること。
- 4 学長のリーダーシップの下で推進している機動的・戦略的・効率的な大学運営を目指した取組みや、県民に支えられる大学として県民や社会への説明責任を重視し、開かれた大学運営を目指した取組みを評価すること。

II 分野別の視点

1 教育

豊かな人間性と国際的なコミュニケーション能力を有する人材育成に努めるとともに、新しい時代に対応し得る質の高い教育体制を確立しているか。

[教育体制・教育課程の充実強化]

全学共通教育を一層充実するため、「総合教育センター」が中核となり、授業計画の立案など各学部間の連携強化が図られているか。また、各学部等の特性を考慮したバランスよいカリキュラム編成が図られているか。

[学生の受入]

大学の教育理念を踏まえたアドミッションポリシーを積極的に広報するとともに、優秀な学生の確保を図るため、多様な選抜制度の検証と充実・改善を図っているか。

[全学共通教育の充実]

英語コミュニケーション科目、情報関連科目の充実を図るほか、総合大学としてのメリットを生かし、他専攻科目の充実、附置研究所の活用など、全学共通教育の充実を図っているか。

[専門教育の展開]

地域連携教育や実践・体験型教育、高度専門職業人養成など社会ニーズに対応した専門教育を展開しているか。

[学生の支援]

学生の就職支援・キャリア形成のほか、生活相談、経済的支援など、学生生活全般にわたりきめ細かい支援を行っているか。

[学術情報環境の充実]

教育研究資料の整備を計画的に進めるとともに、ネットワーク基盤の整備を図っているか。

[大学教育改革の推進]

「学生による授業評価」の実施、全学的なFD (Faculty Development) の推進、「副専攻選択制度」をはじめとして、大学教育改革を積極的に推進しているか。

[教育の成果]

学生による評価、卒業（修了）後の進路の状況やJ A B E E（日本技術者教育認定機構）など外部の教育課程認定制度等を活用し、教育成果の検証を行っているか。

[中高大連携教育の実施]

6年間の計画的・継続的な中高一貫教育の展開と大学との連携・協力関係の強化が図られているか。

2 研究

地域や大学の有する特色ある資源を生かした先導的・独創的な研究を推進しているか。

[研究体制の充実強化]

総合大学としての特色を生かし、多様な研究資源を活用した研究体制が確立しているか。

[研究拠点の整備・充実]

時代の要請に対応する新たな研究拠点の整備・充実に取り組んでいるか。

[研究の高度化・重点化]

グローバルCOEの採択等、国際的に卓越した教育研究拠点化を推進するととも

に、研究成果を評価し、評価結果を研究費配分に反映する等の検討が行われているか。

[共同研究の推進・外部資金の確保]

外部研究者との学術交流や、産業界との共同研究に積極的に取り組んでいるか。

また、競争的研究資金など外部の研究資源の獲得を図るため、戦略的な取組が行われているか。

[研究支援]

産学連携センターによる研究ニーズの情報収集、コーディネートが効果的に行われているか。

[社会への還元]

研究成果をセミナー等を通じて社会に還元するとともに、研究業績を広く公開しているか。

3 社会貢献

地域とともに発展する大学の実現を図るため、生涯学習や産学連携、国際交流などを全学的な体制で推進し、地域社会や国際社会への貢献を積極的に行っているか。

[地域社会との交流・連携]

調査研究受託等によるシンクタンク機能の発揮や、地域課題の解決支援など、大学の知的資源を生かした活動を展開しているか。

[生涯学習の支援]

「生涯学習交流センター」の機能を高め、大学の資源を活用し、社会人のリカレント教育をはじめとした県民の多様な生涯学習ニーズに応えているか。

[地域産業との連携]

「産学連携センター」の充実を図り、産業界との交流を推進するほか、経営技術の提案等による中小企業の創業支援、インキュベーションセンターを活用した共同研究など、大学の有する研究成果を積極的に還元しているか。

[国際交流の推進]

「国際交流センター」と各部局が連携し、大学の知的資源を生かした国際貢献に寄与しているか。また、協定交流大学との単位互換・単位認定制度の導入や留学生支援など学生の国際交流を推進する環境整備に努めているか。

4 管理運営体制

戦略的・機動的に大学を運営し、県立大学として県民や社会への説明責任を重視した大学の管理運営体制が確立しているか。

[戦略的・機動的な大学運営の推進]

学長補佐体制の強化、部局長補佐体制の整備が図られているか。また、各部署の個性・特長の明確化と大学全体のブランド力向上のための戦略を検討しているか。

[教育研究環境の整備]

教育研究施設や設備の整備について中長期的な視点で検討しているか。また、アカデミック・ハラスメント等に関する意識の向上に努めているか。

[多様な教員人事制度の構築]

任期制の適切な運用を図るほか、教員の教育・研究・社会貢献等における活動の評価手法を開発し、柔軟な処遇のあり方について検討するなど、多様な人事制度の構築に努めているか。

[組織の機能強化と業務の効率化]

教員と事務組織が連携し、円滑な運営が図られているか。また、情報化の推進、定型業務の集約化、外部委託の推進などにより、効率的な業務執行に努めているか。

[点検・評価と情報公開]

外部評価機関による評価結果を業務運営に反映し、大学の質の向上に生かしているか。また、全学的な広報戦略を確立し、県民や社会への説明責任を果たすため、様々な情報を公開・提供しているか。

今後のスケジュール（案）

		県立大学評価委員会	県立大学	(参考) 認証評価
H21.7.29		委員会の設置（第2期） 第1回評価委員会（運営方針の協議等） ←	第2期中期計画に係る自己点検・ 評価（中間評価）の報告	6月末 自己評価書を認証 機関へ提出
8月	上			
	中			
	下			
9月	上		<各部局> 自己点検・評価 （基準時点：8月）	
	中			
	下	県立大学キャンパス調査 （大学現地調査、学部との意見交換）		
10月	上			
	中			
	下			
11月	上		<学内評価委員会> 自己点検・評価取りまとめ作業 評価委員会へ基礎データを提供	認証機関による現 地訪問（10/26,27）
	中	第2回評価委員会 （業務実績の評価） ←		
	下			
12月	上		<学内評価委員会> 自己点検・評価第1次案作成 各部局との調整	
	中			
	下			
22年1月	上		<学内評価委員会> 自己点検・評価最終案作成 <評議会> 自己点検・評価を承認 評価委員会へ自己点検結果提供	認証機関より 評価結果案の通知
	中	第3回評価委員会 （業務実績の評価） ←		
	下			
2月	上			大学にて 意見申立検討
	中	第4回評価委員会 （全体評価、報告書について）		
	下			
3月	上		評価報告書を知事へ提出 県立大学への通知・公表 →	第3期中期計画への反映
	中			
	下		第3期中期計画策定	認証評価 結果確定
4月以降		評価結果のフォローアップ 意見交換会 等 →	業務運営の改善・充実 ←	

兵庫県立大学キャンパス調査について

1 実施時期（予定）

9月下旬～10月上旬の2日間（午後半日程度）

（日程、行程を調整後、出欠表を送付しますので、ご返送ください。）

2 内容

評価委員が兵庫県立大学キャンパス・研究所を直接訪問して施設を視察するとともに、学部長等からヒアリングすることで、今後の評価の参考とする。

3 キャンパス調査（案）

(1) 学園都市キャンパス

学部	経済学部・経営学部
大学院	経済学研究科・経営学研究科・会計研究科
附置研究所	経済経営研究所

① 学部等の概要ヒアリング

（会計専門職大学院、経営専門職大学院等の動向）

② 現状と課題ヒアリング

（教育・研究・社会貢献・管理運営）

(2) 書写キャンパス

学部	工学部
大学院	工学研究科

① 学部等の概要ヒアリング

（インキュベーションセンター、プロジェクト等の動向）

② 現状と課題ヒアリング

（教育・研究・社会貢献・管理運営）

4 進め方

(1) 学部長等からの説明（概要及び現状と課題）

(2) 質疑

(3) 視察